

第11節 学校図書館

1 概 況

文部省では、例年どおり、学校図書館司書教諭講習を実施するとともに、学校図書館研究協議会を開催した。学校図書館の学校教育における位置を明確にし、特に、教育課程の効果的な実施に役立つ学校図書館の運営を期待しているようである。

この「教育課程の展開に寄与し、学習指導の効率化を旨とする」、いわば「組織化された教材センター」としての学校図書館のあり方については、本県においてもかなり大きな関心が持たれるようになり、その実績も上がりつつある現状である。

また、目まぐるしいマスコミの影響下にある現代の生活では、読書による豊かな、おちついた人間形成の重要性が強調される。この風潮を反映してか、原町市で開かれた福島県学校図書館研究大会では、「人間形成のための読書指導」に焦点を合わせて、授業や研究・討議が行なわれた。時宜に適したものとえよう。

なお、学校図書館の施設・設備の充実度、各種資料の収集整理・活用等の組織化の度合い等には、依然として、相当な地域差や学校差が見られる現況である。

いわゆる「学校司書」の公費化については、従来、県立学校の司書部会代表が中心となり、県教育委員会その他関係機関に対し、陳情を重ねてきていた。幸い、昨年度より、逐次司書手当の一部として補助金が数校に配分されるようになった。しかし、その身分を保障して、生活の安定をはかるためには、公費採用の職員とする施策の促進が、いよいよ望まれるわけである。

2 文部省主催の学校図書館研究協議会

昭和41年12月13日～14日の2日間、国立教育会館を会場として開かれた。標記協議会における研究主題と、本県よりの参加者氏名を列記すると次のとおりである。

(1) 研究協議の主題（各部会共通）

- ① 学習指導の効果を高めるための資料の収集、組織化、提供について
- ② 学校図書館が行なう読書指導について

(2) 本県よりの参加者名簿

- ① 小学校部会
いわき市長倉小学校教頭 齋藤正夫
- ② 中学校部会
いわき市立湯本第一中学校教頭 根本透
県教育庁指導課指導主事 齋藤正夫
- ③ 高等学校部会
県立湯本高等学校教諭 鈴木秀枝

3 第17回福島県学校図書館研究会原町大会

(1) 研究主題

「教育課程の中で学校図書館をどのように役だたせるか。また、人間形成のための読書指導はどのようにすればよいか。」

- (2) 主 催
福島県学校図書館協議会 原町市教育委員会
相馬地方小中学校教育研究会 双葉地方小中学校教育研究会
- (3) 後 援
福島県教育委員会・相馬地方小中学校長協議会・双葉地方小中学校長協議会・相双地区高等学校長協議会
- (4) 期 日
昭和41年11月7～8日
- (5) 会 場
原町市立原町第一小学校（小学校部会、全体会）
原町市立原町第三中学校（中学校部会、高等学校部会、司書部会）
- (6) 講 師
全国学校図書館研究協議会事務局長 松尾弥太郎
福島県教育庁指導課指導主事 齋藤正夫
- (7) 分科会における研究テーマと発表者
 - ① 小 学 校
 - ア. 「学習指導における読書指導」
古内裕務（富岡二小） 藤田広彦（白河一小）
 - イ. 「家庭における読書指導」
田野入重徳（八幡小） 佐藤栄覚（大平小）
原正昭（湯本小）
 - ② 中 学 校
 - ア. 「人間形成につながる読書指導」
佐藤千春（金房中） 木村駿一（北信中）
 - イ. 「特別教育活動における読書指導」
井戸川次男（双葉中） 須藤善蔵（平三中）
 - ③ 高 等 学 校
「特別教育活動における読書指導」
鈴木正之（相女高）
 - ④ 司 書 部 会
「図書館運営の新しい構想」
鈴木修平（入遠野小） 小林都（芳賀小）

4 県立高等学校図書館司書研修会

- (1) 期日 昭和41年10月25～26日
- (2) 場所 県立郡山女子高等学校
- (3) 内容 「目録のとり方とカード記入について」、「製本技術について」等、図書館実務の研修

第12節 教育研究団体

1 自主的教育研究団体

(1) 自主的研究団体育成の経過

年度	目 標	実 施 概 要
昭和38年度	団体の整理と統合	昭和37年度において県国語教育研究会外34団体あったものを予算の効率化を図るため17団体に整理統合した。
昭和39年度	団体の整理統合と組織の確立	上記17団体をさらに10団体に統合し組織機構を整備し、各団体の基礎を確立した。
昭和40年度	研究財政の確立	昭和39年度をもって研究組織が確立したのでこれが健全育成を図るため、財政の確立を図った。